



平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年8月9日

上場取引所 東 名

上場会社名 大東紡織株式会社

コード番号 3202 URL <http://www.daitobo.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 国広 伸夫

問合せ先責任者 (役職名) 経営管理本部経営企画部長

(氏名) 三枝 章吾

TEL 03-3665-7843

四半期報告書提出予定日 平成25年8月9日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	1,551	△7.4	△95	—	△175	—	△179	—
25年3月期第1四半期	1,675	△3.1	△95	—	△180	—	△192	—

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 △112百万円 (—%) 25年3月期第1四半期 △150百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	△5.99	—
25年3月期第1四半期	△6.42	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第1四半期	21,513	4,677	19.5
25年3月期	22,054	4,790	19.6

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 4,185百万円 25年3月期 4,327百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	3,500	△6.2	60	△32.5	△100	—	△90	—	△3.01
通期	8,100	△1.0	500	33.9	160	200.0	120	678.7	4.01

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期1Q	30,000,000 株	25年3月期	30,000,000 株
② 期末自己株式数	26年3月期1Q	65,612 株	25年3月期	65,362 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期1Q	29,934,513 株	25年3月期1Q	29,935,965 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続きは終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいたものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、公共投資の増加や輸出の持ち直しの動きに加え、個人消費も消費者マインドの改善に伴い底堅く推移したことなどを背景に、着実に持ち直しております。ただし、雇用所得環境は改善傾向にあるものの厳しさが残っており、また欧州経済の不確実性が景気下押しリスクとして残る環境でありました。

繊維・アパレル業界におきましては、景気持ち直しの動きと気温の上昇に伴い、夏物ファッション商材が動き出して以降は比較的順調に推移しました。特に、ラグジュアリーブランドなどの高額品中心にレディース衣料の伸びが目立つ動きとなりました。

ショッピングセンター業界におきましては、5月中旬ごろまでは天候不順もあり弱い動きとなりましたが、気温が高く好天の続いた6月に入り改善傾向となりました。特に、昨年はセール時期の分散化で盛り上がりを欠いた夏物セールが、開始時期を6月下旬に前倒ししたことなどから終盤に売上を伸ばす展開となりました。

このような状況の中で、当社グループは当期(第194期)から「中期経営計画 Beyond 120th~120周年を超えて未来へ」をスタートさせ、収益力増強のための「成長戦略」と繊維事業の安定的黒字を確保するための「安定化戦略」への取り組みを進めております。

繊維・アパレル事業につきましては、「成長戦略」に基づく強化事業への取り組み強化および「安定化戦略」に基づく基盤事業の推進は概ね順調に進捗したものの、採算の低下しているメンズスーツ事業のスリム化の影響が大きく、売上高・営業利益とも前年同期を下回る結果となりました。不動産事業につきましては、「成長戦略」の主力事業育成方針の下、静岡県下有数の商業施設である「サントムーン柿田川」においてテレビCMなどを積極的に展開し集客力向上に努めたことなどが奏功し、売上高・営業利益とも前年同期を上回りました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高15億51百万円(前年同期比7.4%減)と減収となり、営業損失95百万円(前年同期は営業損失95百万円)、経常損失1億75百万円(前年同期は経常損失1億80百万円)となりました。これに、法人税、住民税及び事業税等を加減した結果、四半期純損失は1億79百万円(前年同期は四半期純損失1億92百万円)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(繊維・アパレル事業)

衣料部門につきましては、メンズ衣料は採算の低下しているメンズスーツ事業のスリム化を主因に売上高が前年同期を大きく下回りました。レディース衣料は一部大口先の受注減を主因に売上高は前年同期を下回りました。

ユニフォーム部門につきましては、官公庁向けユニフォーム生地を受注を獲得できたことにより、売上高が前年同期を上回りました。

寝装品部門につきましては、夏用の機能性素材を活用した寝装品が好調で、売上高は前年同期を上回りました。

この結果、繊維・アパレル事業の売上高は9億63百万円(前年同期比12.2%減)、営業損失は2億17百万円(前年同期は営業損失2億4百万円)となりました。

(不動産事業)

不動産事業につきましては、静岡県下有数の商業施設である「サントムーン柿田川」の順調な集客力を背景に、売上高は前年同期を上回りました。

この結果、不動産事業の売上高は5億88百万円(前年同期比1.6%増)、営業利益は2億32百万円(前年同期比8.4%増)となりました。

- (注) 1. 上記のセグメントの業績に記載している営業利益は、セグメント間の内部取引を含んだ金額を記載しております。
2. 当社の消費税等に係る会計処理は、税抜方式によっているため、記載した金額には消費税等は含まれておりません。
3. 記載している見通し等将来についての事項は、本資料の発表日現在において判断したものであり、予測しえない経済環境の変化等様々な要因があるため、その結果について当社グループが保証するものではありません。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債、純資産等の状況に関する分析)

① 資産

当第1四半期連結会計期間末における総資産の残高は215億13百万円(前期末は220億54百万円)となり、前期末に比べ5億41百万円減少(前期末比2.5%減)しました。主な要因は、受取手形及び売掛金の減少6億58百万円であります。

② 負債

当第1四半期連結会計期間末における負債の残高は168億35百万円(前期末は172億64百万円)となり、前期末に比べ4億28百万円減少(前期末比2.5%減)しました。主な要因は、支払手形及び買掛金の減少3億81百万円、長期預り保証金の減少66百万円であります。

③ 純資産

当第1四半期連結会計期間末における少数株主持分を含めた純資産の残高は46億77百万円(前期末は47億90百万円)となり、前期末に比べ1億12百万円減少(前期末比2.4%減)しました。主な要因は、四半期純損失1億79百万円、為替換算調整勘定の増加40百万円、少数株主持分の増加29百万円であります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、営業活動によるキャッシュ・フローで59百万円のプラス(前年同期は1億33百万円のマイナス)、投資活動によるキャッシュ・フローで3億5百万円のマイナス(前年同期は1百万円のマイナス)、財務活動によるキャッシュ・フローで1億37百万円のプラス(前年同期は58百万円のマイナス)となりました。

これらの各活動に加え、為替相場の変動による現金及び現金同等物に係る換算差額37百万円のプラスを反映した結果、当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は10億21百万円(前年同期比36.2%増)となり、前期末に比べ71百万円減少しました。

当第1四半期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、59百万円のプラス(前年同期は1億33百万円のマイナス)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失1億75百万円、売上債権の減少6億52百万円、仕入債務の減少3億87百万円によるものであります。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、3億5百万円のマイナス(前年同期は1百万円のマイナス)となりました。これは主に、預け金の預入による支出3億3百万円によるものであります。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、1億37百万円のプラス(前年同期は58百万円のマイナス)となりました。これは主に、短期借入金の純増加額1億14百万円、長期借入れによる収入4億円、長期借入金の返済による支出3億55百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成25年5月14日発表の予想数値に変更はありません。なお、業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいたものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、平成22年3月期(第190期)において、紳士服販売子会社の不振が損益面に強く影響を与えたことなどにより、連続して営業損失および当期純損失を計上するとともに、「サントムーン柿田川」の第2期開発および第3期開発資金や紳士服販売子会社の赤字運転資金などの負担から、有利子負債額が高水準となっておりました。当該状況の改善につきましては、相当程度進めているものの、その解消には至っておらず、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

この状況に対処すべく、当社グループは、平成23年3月期(第191期)から平成25年3月期(第193期)までの3年間にわたり「中期経営計画2010～KAIKAKU～」に基づく諸施策への取り組みを進め、計画の柱である「事業構造の改革」と「コスト構造の改革」をほぼ計画通りに達成しました。また、損益面では2期連続で当期純利益を確保するとともに、財務面では「有利子負債の圧縮」について計画を上回る圧縮を行うなど、損益面・財務面での改善を行いました。

さらに、当期（第194期）からは、新たに「中期経営計画 Beyond 120th～120周年を超えて未来へ～」をスタートさせ、従来の構造改革路線から成長路線へ踏み出すことを基本的な考え方とし、特に最終年度の平成28年3月期（第196期）には当社創立120周年の節目を迎えることを機に、当社グループの永続的発展の基盤作りに取り組む方針としております。

具体的には、収益力増強のための「成長戦略」の一つとして、不動産事業を「主力事業」に育成する方針の下、静岡県下有数の商業施設である「サントムーン柿田川」の運営で培ったノウハウを活かし、商業施設におけるプロパティマネジメント業務の新たな展開への取り組みを進めております。また、もうひとつの「成長戦略」として、当社グループ事業から選択した「強化事業」への取組強化を進める方針の下、従来から注力している提案型OEM事業の中から素材・デザイン提案型OEM事業とニット企画提案型OEM事業の2つの事業と、さらに当社が販売基盤を持ち、かつ市場の拡大が見込まれる健康医療関連事業および中国関連事業の2つの事業の計4事業を選択し、その取り組みに注力しております。

また、繊維事業の安定的黒字を確保するための「安定化戦略」として、ユニフォーム事業、生産管理型OEM事業および一般寝装品事業の3つの事業を「基盤事業」に位置付け、安定的な受注により確実に収益を確保するとともに、採算の低下しているメンズスーツ事業については「スリム化事業」に位置付け一段のスリム化を進め業績を安定化させるとの方針のもと、それらへの取り組みを進めております。

当第1四半期連結累計期間における経営成績につきましては、上記「1. (1) 経営成績に関する説明」に記載のとおり、売上高は採算の低下しているメンズスーツ事業のスリム化を主因に前年同期を下回ったものの、損益面では前年水準を改善させることが出来ました。また、有利子負債額は98億60百万円と季節性を背景に前期末比1億37百万円増加したものの、前年同期末と比べれば3億68百万円減少しており、有利子負債の圧縮につきましても計画通りに進捗しております。

当社グループといたしましては、当第1四半期におきましても中期経営計画に基づく諸施策を着実に推進しており、平成26年3月期通期では損益面・財務面ともに計画通り実現し、連結当期純損益の黒字化はもとより、「繊維事業部門の連結営業損益黒字化」を達成するとともに、引き続き余剰営業資金により「有利子負債の圧縮」を図る計画としており、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,583,368	1,511,842
受取手形及び売掛金	1,467,518	808,875
たな卸資産	674,889	653,228
その他	63,023	359,904
貸倒引当金	△10,590	△9,250
流動資産合計	3,778,208	3,324,601
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,698,586	7,618,387
土地	9,343,548	9,343,548
その他(純額)	410,674	410,481
有形固定資産合計	17,452,809	17,372,418
無形固定資産		
	78,898	84,621
投資その他の資産		
投資有価証券	345,012	340,480
破産更生債権等	127,546	127,541
その他	396,120	387,746
貸倒引当金	△124,245	△124,240
投資その他の資産合計	744,432	731,527
固定資産合計	18,276,141	18,188,566
資産合計	22,054,350	21,513,167

(単位: 千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,177,674	795,972
短期借入金	3,490,848	3,632,904
未払法人税等	35,537	21,359
返品調整引当金	146,318	146,318
賞与引当金	31,981	22,912
その他	799,670	678,591
流動負債合計	5,682,030	5,298,058
固定負債		
社債	300,000	300,000
長期借入金	5,040,672	5,057,954
長期預り保証金	3,167,604	3,101,232
繰延税金負債	16,937	15,059
再評価に係る繰延税金負債	2,575,733	2,575,733
退職給付引当金	183,986	193,656
資産除去債務	55,571	55,794
その他	241,644	238,448
固定負債合計	11,582,149	11,537,879
負債合計	17,264,179	16,835,937
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,500,000	1,500,000
資本剰余金	503,375	503,375
利益剰余金	△2,321,156	△2,500,346
自己株式	△6,971	△6,989
株主資本合計	△324,752	△503,960
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	20,345	17,232
繰延ヘッジ損益	67	△799
土地再評価差額金	4,628,550	4,628,550
為替換算調整勘定	3,507	44,383
その他の包括利益累計額合計	4,652,470	4,689,366
少数株主持分	462,451	491,823
純資産合計	4,790,170	4,677,230
負債純資産合計	22,054,350	21,513,167

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第 1 四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第 1 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 6 月30日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 6 月30日)
売上高	1,675,236	1,551,291
売上原価	1,348,682	1,233,271
売上総利益	326,554	318,020
販売費及び一般管理費	422,261	413,098
営業損失(△)	△95,707	△95,078
営業外収益		
受取利息	334	214
受取配当金	1,364	1,688
貸倒引当金戻入額	580	1,345
その他	3,023	1,237
営業外収益合計	5,302	4,485
営業外費用		
支払利息	80,384	75,401
その他	9,790	9,139
営業外費用合計	90,175	84,541
経常損失(△)	△180,579	△175,133
税金等調整前四半期純損失(△)	△180,579	△175,133
法人税、住民税及び事業税	13,605	16,970
法人税等調整額	△300	△141
法人税等合計	13,305	16,829
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△193,885	△191,962
少数株主損失(△)	△1,564	△12,772
四半期純損失(△)	△192,321	△179,189

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△193,885	△191,962
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6,007	△3,113
繰延ヘッジ損益	△307	△866
為替換算調整勘定	49,726	83,020
その他の包括利益合計	43,410	79,040
四半期包括利益	△150,474	△112,922
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△174,135	△142,294
少数株主に係る四半期包括利益	23,660	29,371

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△180,579	△175,133
減価償却費	135,941	118,987
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△580	△1,345
賞与引当金の増減額(△は減少)	△5,313	△9,069
退職給付引当金の増減額(△は減少)	10,784	9,669
受取利息及び受取配当金	△1,698	△1,903
支払利息	80,384	75,401
売上債権の増減額(△は増加)	474,464	652,984
たな卸資産の増減額(△は増加)	△96,432	29,320
仕入債務の増減額(△は減少)	△324,751	△387,148
預り保証金の増減額(△は減少)	△57,291	△66,371
その他	△66,796	△85,907
小計	△31,870	159,484
利息及び配当金の受取額	1,693	1,897
利息の支払額	△80,844	△68,428
法人税等の支払額	△22,013	△33,316
営業活動によるキャッシュ・フロー	△133,034	59,637
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△1,477	△2,462
投資有価証券の取得による支出	△300	△300
預け金の預入による支出	—	△303,200
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,777	△305,963
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	514,400	114,400
長期借入れによる収入	—	400,000
長期借入金の返済による支出	△551,729	△355,062
リース債務の返済による支出	△20,845	△21,652
自己株式の増減額(△は増加)	—	△18
財務活動によるキャッシュ・フロー	△58,174	137,667
現金及び現金同等物に係る換算差額	5,609	37,132
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△187,376	△71,525
現金及び現金同等物の期首残高	937,711	1,093,231
現金及び現金同等物の四半期末残高	750,334	1,021,705

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I. 前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	繊維・アパレル 事業	不動産事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,096,401	578,835	1,675,236	—	1,675,236
セグメント間の内部売上高 又は振替高	24	480	505	△505	—
計	1,096,426	579,316	1,675,742	△505	1,675,236
セグメント利益又は損失(△)	△204,908	214,839	9,930	△105,638	△95,707

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△105,638千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II. 当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	繊維・アパレル 事業	不動産事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	963,031	588,259	1,551,291	—	1,551,291
セグメント間の内部売上高 又は振替高	110	240	351	△351	—
計	963,142	588,500	1,551,643	△351	1,551,291
セグメント利益又は損失(△)	△217,691	232,951	15,259	△110,337	△95,078

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△110,337千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。